

ふるさとファイル

展示コーナーだより

第 23 号

平成 17 年 7 月

生涯学習課文化財係



実業補習学校から青年学校へ

展示期間

平成 17 年 7 月 2 日 (土)

~ 10 月 2 日 (日)

* 「戦争と平和展」の期間を除く

明治後期、小学校卒業後の生徒に対する新たな教育機関として実業補習学校がつくれられ、青少年教育に大きな役割を果たしました。しかし戦争の進展とともに、兵役の予備教育機関としてしだいにその役割が変化していきます。

長法寺小学校に残された資料をみながら、明治後期から戦時中までの動きを追ってみましょう。

乙訓村・海印寺村組合女子手芸学校

明治 42 年 (1900) 長法寺尋常小学校内に開設。90 名の定員に 1 ヶ月 30 銭の授業料を徴収しました。

三学期制を採用し、科目は、修身・家政・国語・算術、裁縫・手芸があり、特に裁縫・手芸に力点がおかされました。

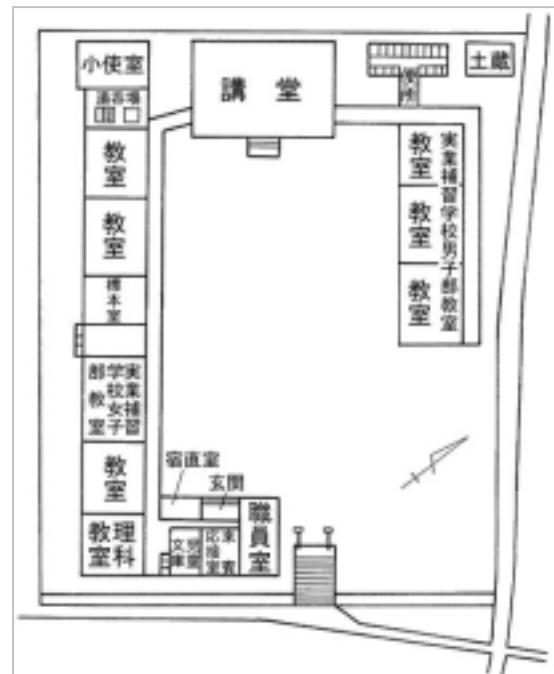
乙訓村立実業補習学校

同じ年、12 歳以上の男子を対象に、「農業に関する知識・技能」と「普通教育の補習」を目的として長法寺小学校内に設置されました。授業料は徴収せず、定員は 80 名です。時間は午後 7 時 30 分から 9 時 45 分までの夜学でした。

実業補習学校の合併・改組

大正期に入ると、男子の実業補習学校と女子の裁縫学校を合併・改組してあらたな実業学校がつくられるようになります。

乙訓村立実業補習学校は、大正 6 年に廃止されて、あらたに乙訓村・海印寺村組合村立の実業補習学校となり、大正 9 年に女子の手芸学校が、その女子部に改組されることになりました。



実業補習学校校舎配置図（大正 9 年）

青年学校の設立

大正期には主に実業教育機関として位置付けられていた実業補習学校は、しだいに戦争体制に備えた予備教育機関となっていました。

大正15年(1926)公布された青年訓練所令によって実業補習学校に併設された青年訓練所は、義務教育終了後の実業教育に軍事教練を求めるものでした。

そして昭和10年(1935)に公布された青年学校令によって、青年訓練所と実業補習学校が統合され、乙訓村・海印寺村学校組合実業補習学校は、楽信(らくしん)実業青年学校となります。

昭和14年、青年学校は義務化され、軍隊の予備的な要素はいっそう強まっていきます。

昭和18年には、戦時下における義務教育終了後の地域社会の青年教育充実を期して、向日町外九ヶ村組合立の青年学校が設立され、楽信実業補習学校もこれに統合されました(男子部のみ。女子部は翌年)。

「乙訓郡楽信実業青年学校」の門札が掲げられていて、写真の人物からも、このころの青年学校の雰囲気が伝わってきます。



【参考文献】

『長岡京市史』本文編二

乙訓郡楽信実業青年学校卒業記念写真帳(昭和13年)から